

一過性案件の反動減影響を受けたが、計画線でのスタートと見られる

Q1 Flash

 URBAN DEVELOPMENT &
CIVIL ENGINEERING, CONSULTANTS
株式会社 オオバ

決算サマリー

- 10月9日、オオバは26/5期Q1決算を発表した。売上高は前年同期比25.6%減の2,944百万円、営業利益は同36.2%減の175百万円となった。業務別では、建設コンサルタントが売上高2,728百万円（同6.1%増）/売上総利益915百万円（同13.0%増）と堅調に推移した。一方、事業ソリューションは前期に計上した一過性の大型案件の反動減を反映し、売上高215百万円（同84.5%減）/売上総利益52百万円（同79.4%減）となった。
- 建設コンサルタント領域では、主力のまちづくり分野が増収を牽引したことに加え、売上総利益率も前年の31.5%から33.6%に上昇するなど、収益性の改善も進展した。連結業績は事業ソリューションの反動減の影響を多分に受けたが、主力の建設コンサルタントは順調なスタートを切ったとSIRは考える。
- 受注動向について、受注高は前年同期比1.3%減の6,365百万円、受注残高は同0.9%増の12,879百万円となった。主力の建設コンサルタント領域では、地理空間情報や設計の受注が大きく増加した一方、まちづくり分野は伸び悩み、受注残高の伸びも微増に留まった。ただし、上流工程である計画分野の受注拡大が継続しており、今後の案件スケールの拡大に向けた進捗が伺える内容である。
- 26/5期の会社計画（売上高17,000百万円、営業利益が2,000百万円）は据え置かれた。Q1の減収減益は事業ソリューション領域の大型案件の反動減によるものであり、1) Q1の同大型案件の反動減影響は期初計画に織り込み済みであること、2) 建設コンサルタントの受注残高が堅調に推移していること、の2点から、計画線での進捗とSIRは見ている。

決算期	売上高 (百万円)	YoY (%)	営業利益 (百万円)	YoY (%)	当期純利益 (百万円)	YoY (%)	EPS (円)	DPS (円)
2021/5期	15,862	4.3	1,334	16.6	852	3.5	52.04	15.00
2022/5期	15,933	0.4	1,582	18.6	1,085	27.3	66.98	23.00
2023/5期	15,647	-1.8	1,714	8.3	1,075	-0.9	66.74	24.00
2024/5期	16,485	5.4	1,842	7.4	1,339	24.6	83.70	37.00
2025/5期	18,096	9.8	1,936	5.1	1,334	-0.4	83.68	42.00
2026/5期(会予)	17,000	-6.1	2,000	3.3	1,400	4.9	88.15	42.00
2025/5期Q1	3,959	45.2	274	860.2	190	736.1	11.95	-
2026/5期Q1	2,944	-25.6	175	-36.2	124	-34.9	7.81	-

出所：同社IR資料より SIR作成

チームカバレッジ

research@sessapartners.co.jp



本レポートは当該企業からの委託を受けてSESSAパートナーズが作成しました。詳しくは巻末のディスクレマーをご覧ください。

ディスクレーマー／免責事項

本レポートは対象企業についての情報を提供することを目的としており投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。本レポートに掲載されたデータ・情報は弊社が信頼できると判断したのですが、その信憑性、正確性等について一切保証するものではありません。

本レポートは当該企業からの委託に基づきSESSAパートナーズが作成し、対価として報酬を得ています。SESSAパートナーズの役員・従業員は当該企業の発行する有価証券について売買等の取引を行っているか、または将来行う可能性があります。そのため当レポートに記載された予想や分析は客観性を伴わないことがあります。本レポートの使用に基づいた商取引からの損失についてSESSAパートナーズは一切の責任を負いません。当レポートの著作権はSESSAパートナーズに帰属します。当レポートを修正・加工したり複製物の配布・転送は著作権の侵害に該当し固く禁じられています。



SESSAパートナーズ株式会社

東京都港区麻布十番2-8-14 i-o Azabu 5a
info@sessapartners.co.jp